

郷土を知る
むかしむかし
昔々の
そお市

第44回



あいこうけんたつ
愛甲兼達

～郷土に尽くした実業家～

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

皆

さんは財部町出身の愛甲兼達という人物をご存じでしょうか？明治から大正期にかけて活躍した実業家であり、郷土の発展と後進の育成に尽力した人物です。

兼達は文久2年（1862）に財部町古井地区に津曲伝助の長男として出生しました。幼名を善之助と言います。幼少期から利発だったようで、地区から数名しか選抜されなかった教員養成講座の生徒に選ばれ、優秀な成績で卒業しました。さらに鹿児島師範学校に進学し、国分小学校や甲申小学校*で教師として働き始めます。

しかしさらなる向学の念を抱いた兼達は上京して簿記経済学を学びます。その後、日本銀行勤務を経て、大阪の浪速銀行（のちに十五銀行へ吸収合併）へ入行します。兼達の働きぶりを見込んだ上司の世話で愛甲家へ養子に入り、愛甲兼達と名乗ります。ますます仕事に励んだ兼達は支店長・常務と重要な職を歴任し、やがて関西財界の重鎮となりました。

財界で活躍した兼達ですが、郷

里を思う気持ちもたいへん篤く、慈善事業・育英事業に尽力します。郷里の子弟がより良い教育を受けられるよう私財を投じて奨学資金の寄付を行い、社会に貢献する人材の育成を支援しました。この奨学金は長年に渡り優秀な人材の育成に寄与しています。

また財部町城山から日光を経て荒川内までの道路開削工事に多額の寄付を行っています。当時、日光神社へ向かう道は不便だったようで、町民は道路開削をたいへん喜んだと言います。

故郷のために尽くした兼達は、昭和3年（1928）67歳で生涯を閉じました。遺骨は財部町内の宮原霊園と西正寺に分骨され、霊園近くの日光神社境内には兼達の功績を伝える頌徳碑が建てられています。

今日の曾於市があるのは、兼達のように故郷を思い、心を尽くした人々がいたことを忘れてはならないでしょう。

※甲申小学校：明治17年当時、北俣に

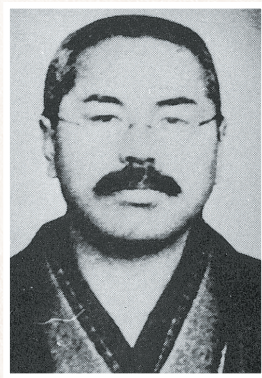
設置されていた小学校。



【アクセス】
日光神社
曾於市財部町北俣9260番地



頌徳碑



愛甲兼達